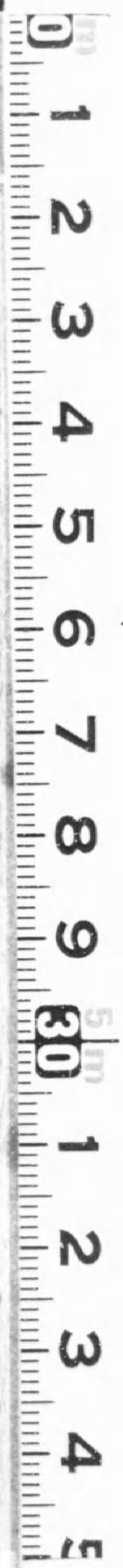


# 産児制限の可否

特 220

152



始



特220  
152

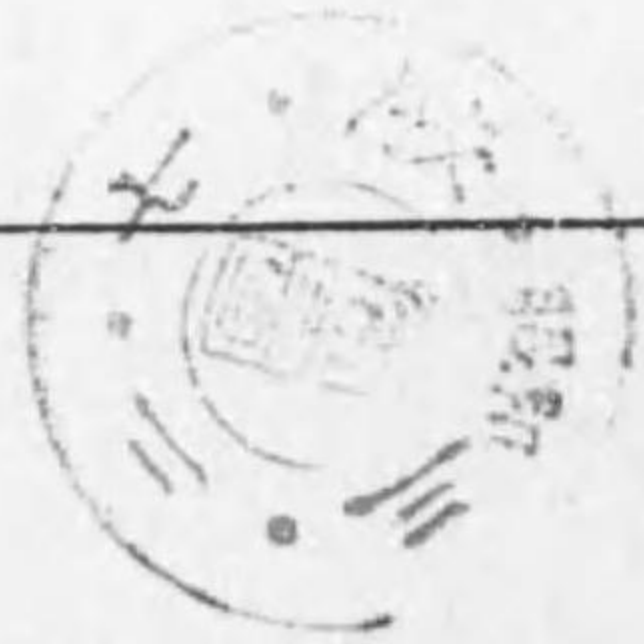


朝日民衆講座第二輯

昭和二年十一月廿三日第十回朝日民衆講座  
に於ける紀平正美、安部磯雄兩氏の討論會

# 産兒制限の可否

朝日新聞社發行



産兒制限の可否

藤田 正美

昭和十一年三月



産兒制限の可否

(討論會速記)

文學博士 紀平 正美



かういふ討論の形式において自己を述べる場合、最初にあたりましたのは、調子のいゝものか悪いものか分りません。(笑聲)無論相手の人がどう出るかも分らず、前から考へて來ることも出来ません。相手の出様によつては随分議論の仕方もあり、随分うまく行くかも知れませんが、それが分らないのであるから、こゝにまづ、純粋な自己の立場に立つより外にないのてあります。

その純粋な自己の立場として考へる時に、私は性慾に關係した種々な刺戟的廣告文を見らる。殊に幾多の婦人雜誌などが男女性的挑發的な文句を弄して新聞雜誌に廣告して居るのに

對して、我々、少くとも私は、一つの不安の念を以てこれを見、不愉快の念を以てこれに接して居るのであります。それと同様の意味において、こゝに産兒制限或は産兒調節問題なんかを、公衆の面前において論ずべく出て來なければならぬといふことは、私の最も不愉快と感ずるところであります。従つて私はさういふ意味において、須く私の倫理道徳の立場から考へるところを、たゞその一端を、申述べて御静聽を煩はしたいと思ひます。

子供は夫婦關係の徳の實現

安部氏が幾人子をもつて居られるか 私は知りませぬ。(笑聲)けれどもほのかに聞くところによれば、相當にお有りのやうであります。(笑聲)若し子の無い人ならば、私は私の相手にするを敢てしない。といふのは、子を持たぬ人はさういふことを論ずる資格を有しないからである。私は子供を九人持ちました。(笑聲)そしてそのうち一人を亡くして、只今では男四人女四人の親として居ります。ともかく八人の生存して居る子供をもちながら、なほもつて産兒制限の不可なることを論じなければならぬところの、その私の態度をお考

へ下されたいと思ふのであります。

曾て私は實際の問題として考へ、實はこのことはこの講堂でも一度申したことがあります。すが、私のやうに子供を澤山持つて居る者の集りました席で、或る人が話しました。「僕の知人で少々頭に白髪がまじつても、子がないものであるから尙ほ夫婦一緒に風呂へはひつて居る者がある。(笑聲)そこで僕が、お前そんな老人になつても、尙ほ且つ夫婦で風呂にはひつて居るのか。かう言つたら、その人が、それぢやお前等は夫婦で風呂へはひつて居らぬのか。とかう反駁をして、向うから逆襲的に驚かれたといふことであります。私はそれを聞きました時に、何と彼等夫婦の日常生活は索寞なものであらうぞ。それは夫婦になつた初の頃は、同衾することもあります。(笑聲)同衾するも尙ほ足らず、ともに手を取つて歩く。(笑聲)ともに手を取つて歩いても尙ほ足らず、(笑聲)夫婦で一緒に風呂へはひりたいといふ氣分の起ることもありません。けれども二十年も三十年もたつてから、尙ほ一緒に風呂へはひらなければならぬかといふやうなことは、如何に氣の毒な夫婦生活であるか、と私はかはいさうに感じました。子供を持つて居らなければこそ、その人達はそれを當然あ

たりまへなことを考へて行くてせう。けれども我々子供をもつて、その子供を風呂に入らせ  
 て、子供のつや、かな肌を洗つてやるときの心持と、また自分の家内と一緒に入つて、脊中  
 を洗つてやつたり流し合つたりして居るときの心持と、如何に意味が違ふかといふ、單にそ  
 れだけのことを考へても、子をもつことの意義、その有難さを感じる。まして二人の子をも  
 てば二人の意義が生じ、三人の子を持てば三人の意義が生じ、四人の子を持てば四人の意義  
 が出て来る。その意義それ自らにおいて、私どもは子供を媒介として夫婦關係といふ徳の  
 實現といふ大きな仕事をするのであります。(拍手)

私は實際の經驗をもつて居りますから、その自分の經驗より他にでない。しかもその  
 經驗を合理化して、どう考へて居るかといふ問題から出發するのでありますが、子供をもつ  
 て居らず、あるひは持ち得ない、乃至は一人位しかもつて居らぬといふ時に、こゝに子供が  
 出來たらどうして養つて行くか——いや一人位ではなほ問題にもならぬかも知れぬが、先づ  
 この上に二人の子供をもつたら、如何にすれば養うて行けるか、三人の子供をもつたら、ど  
 うすれば養うて行けるか、といふやうなことを考へたならば、一人すら養うて行けないもの

が、どうして二人養つて行けませう、どうして三人養つて行けませう。一人すら、二人す  
 ら、三人すら、況んや四人、五人、六人、七人、八人と、どうして養つて行けませう。私  
 が子供の無い時に、八人の子供を養ふなんといふ考へを自分で持つたら、それは考へるだに  
 恐しいことである。然るにそれにも拘らず、私は今日八人の子供の親として、少しも不  
 自由を感じてゐない。その不自由を感じてゐないのは、一人の子供には一人の子供として、  
 二人の子供には二人の子供として、三人の子供には三人の子供として、それによつて私ど  
 も夫婦の夫婦關係、及び親子の關係といふものが、それだけ徳の實現として進むからであります。

子供によつて夫婦愛が基礎づけられる

産兒制限論者或は調節論者は、その立場を如何なるところに基けるかは知りませぬけれど  
 も、私の立場から假に考へて見ると、思ふに、子供をもつて居らぬものが子供をもつたら  
 どうするか、といふ問題と同様の關係でありませう。極く近頃のことでありましたが、私  
 ども夫婦が仲人をした新夫婦に可愛らしい子供が出來て、その子供を連れて私のところへ

遊びに來られた。それはそれは妙に可愛らしい子供で、私ども夫婦して、何といふ可愛らしい子供かとほめた。その時私は私の家内に向つて、これは實に可愛らしい子供だ。可愛らしいからいまお前にこの子供を育てよといはれたら、お前これを育てるかいときいた。答へて曰く、それは御免でございますと。如何に可愛らしいからとて、また一步進んで、何かの事情で、それを育てるのが義務であると考へたところで、さういふことをするのは恐しいことだ。苦しいことなのであります。何となれば、自分といふものを中心にして、打算的に考へる以上は、たとへば自分に子がないために貫子をする——これはよくやることでありますが、自分の跡とりにならなければならぬといふ態度において貫子をし、そして育てる。これは實に苦しいことであるけれども、跡取が欲しいから貫子をするといふやうなときに、そこに眞の意味での親子の關係が實現するかどうか。單に跡とりにならなければならぬからといふやうな、一ツのこだはつた主觀的な立場にあつては、そこに残るものが何であるかといへば、やがて人生の鐵則なる「目的結果不一致」の法則に泣かなければならぬ。貫子して義理一遍で育てたやうな子供ならば、それに後嗣させようとしたつて、却つてその目的に背

いて行つて了ふに違ひない。さうでなくして、そんな打算的利害關係を超越して、とにかく二人の仲に出來た子供だから仕方ないぢやないか、(笑聲)といふところに出て來る働き、さういふ純眞なる因縁の動きにおいてのみ、本當の親子關係の實現、徳の實現を豫期するこゝとが出来る。(拍手)人の子供を育てるといふことがいかぬといふのはそだ。人の子供をいくら育て、見たところ、さういふ徳の實現といふことは出來ない。決して眞の意味の自分を自分でつかむことすら出來ないのであります。

これを功利主義的に考へるならば、即ち打算的に考へるならば、子無きに如かず。子供があれば子供に親が縛られ、我儘放縱な生活が出來ないかも知れないけれども、それあつてこそ本當の意味の夫婦關係がそこに基礎付けられ、そこに意義を現はして來るのである。

最初の夫婦關係がどうして成り立つか。これを簡單に言へば、性慾の關係、利害の關係であります。その間にもし子供がなければ、それがそのまゝ、繼續するだけの話。これは若い方にはお解りにならないかも知れませぬ。あるひは男女の貞操を無茶苦茶に考へ且つなされて居る人にも解らぬかも知れない。けれども夫婦愛の實現といふことから考へて見るならば、

子供が一人出来ればその一人出来たに對して、それだけ徳を實現する力をもつて来る。二人もてば二人に對して、三人もてば三人に對して、四人もてば四人に對して、五人、六人、七人、八人、その一人一人に對する徳の實現の力が、私自らに賦與されるのである。そこに性慾それ自らにも全く相違したものが出来る。それは必然である。外的必然である。その外的必然が内面化されて、自分の實現した徳である。即ち今日かくの如く私をして言はしめ、かくの如く言ふ權利を私に生ぜしめたのである。

産兒制限は功利説に立つ議論

それ故に私をして言はしむれば、産兒制限論だの、あるひは調節論だのといふことは全く功利説の立場に立つ議論とこそ見られぬ。しかも主観的な我といふものを本にして、しかもその我が永久死なないで居るかの如き立場で考へて居り、その場合に應じ、その時に應じての都合のよい立論とこそ私には考へられぬ。これは、後に安部氏が如何なる態度に出られるか、その出られやうによつては、また一遍批判する。(拍手)もし安部氏が功利説の立場にお立ちなされるならば、私

は一言にして議論をつぶしてしまふ。いはく功利説を運用する所の自己の力に還れ(拍手)と。これだけの一言に盡きます。功利説に對する問題を言ひかけますれば、これは切りのないことではありますが、一ツの例を以てしますと、イギリスは由來功利説でもつて立つて居る國である。イギリスの始終變つて来る政治政策といふものは、功利主義的に運用されて居るのである。しかしながらかくの如くこれを運用して居るイギリス魂なるものは、そんな簡単な功利主義的なものではないのであります。北歐の海賊として活動して居た民族がイギリスといふ土地を占領し自分の居住を安定せんがために、長い間の葛藤を續けて來た。その續けて來たところから、イギリス魂なるものがそこに生じ、そのイギリス魂の働きによつて、場合場合の事件を處理して居るといふのが、イギリスの功利説であります。その功利説によつてこしらへられて居るところの、これを政治上の問題にすれば政黨政治であるとか、その他の制度にしても、その表面に現はれた所だけを日本にもつて來たところて何となるか。その根本なるイギリス魂を忘れてその端先だけをもつて來た。それが現代の政治的に現はれるところの種々なる現象、

これを墮落と言はずにはおかれぬ結果になつて来たのであります。また、由來アメリカは多くの民族の寄集りである。それ故に抽象的なる「人道」或は「正義」といふやうなものを掲げて行くより他に、彼等の國民を統一して行く原理がないのであります。であるから、ジョン・デューウエー氏は明言して居ります、「我々アメリカの國には、政黨乃至哲學として、たゞ未來の哲學があるのみ、歴史の哲學はない」と斷言して居ります。よつてダーウインの進化論をもつて来て、それをそのまま、社會組織の上にもつて来て、生活及び思想を固めて来た。この力においてアメリカ魂となり、そのアメリカ魂によつて彼等は今彼等の如くに動いて居るだけのこととあります。

然るに我々日本は、日本としての過去の哲學を持ち、そして未來の哲學をも、現在の利那利那の働きのうちにつくつて行かなければならぬのである。それが我々の國體であります。故に利那利那の働きのうちに實現する自分の徳力によつて、過去を固め未來をこしらへて行くといふのが、我々の國是でなければならぬ。(拍手)

### 不都合きはまる産兒制限

これを男女性慾の上に考へて見る。子をこしらへんとして性慾行爲を爲すものが何處にある。(笑聲) 子供のない者、子供が欲しくてたまらぬ者には、或はさういふこともありませう。けれども一般人間として、誰か子供をこしらへようと思つてやつて居る者があらう？ その利那利那の満足のうちに、子供が生れて出て来るのである。出来た子供とは即ち我々に賦與されたる謂は、神の意志によつたものである。それを何ぞや、制限せんとするが如きは、神の意志にそむくものである。神の意志なればこそ性交の内容だつて時々刻々變つて来る。(笑聲) いつもかも同じものではない。それを同じものであるとし、功利的に考へて居るならば、これ禽獸に等しい者である。いやしくも自己意識をもつて居る以上、自己の何者たるかを知つて居る以上、性交の場合、場合において、それ／＼内容が違つて来る。もつともこれは若い人が打算的に考へたのではお解りになりますまいが、いやしくも自己といふものを大切にして居るならば、絶えず内容が變つてくることが意識せられる筈である。その内



容をつかむ刹那刹那の生命こそ、子をこしらへて徳を實現する道として出て来る。その徳を實現する力として生れて来る子供を、制限しよう、調節しようといふが如きは何と不都合な考へてはなからりか。さういふ考への下にやつて居る者は、まるで下等動物のやうなもの（笑聲）或は娼妓を抱いて寝て居るやうなものである。娼妓を抱いて寝て居るやうな心持で居つて、どうして夫婦關係、親子關係、及びその徳の實現が出来やうか。

### 婦人の人格完成

翻つてこれを女の問題にうつして考へてみます。こゝに女の方も多数居られるやうであるが、私は私の子供の友人なんかでも、子供を抱いて来るやうになつたら、一人格として取扱つてやらう。子供を抱いて来ないやうな女は、一人格として取扱つてやらないといふことを言つてやる。（笑聲）だから子供のある者は抱いて来るが、それは立派に一人格として取扱つてやります。（笑聲）

子供といふものは、一方から見ればきたない者、見るも不快なものでありませうけれども、

私は彼の大震災の時に、多くの憐れな死者を見ましたが、其内で妊婦の悲惨なむごたらしい屍態を見た時ほど妙に美的に感じたことはなかつた。一體女といふものは徹頭徹尾個人中心主義的なものである。婦人の個人中心主義は下等動物を通じての通則であります。（笑聲）

しかしながら腹へ子供を入れたときから、女は違つて来ます。それに關しての學問的な難しい理窟は言ふ必要もないが、自分と他人との限界、我といふものを考へ、汝といふものを考へて、自他のその限界といふものを考へるときに、そこに重要な立場が生じて来る。

大きく言へば、禪宗の公案に「僧あり趙州に問ふ、如何か是れ組師西來意、州曰く、庭前の柏樹子、」——おれとそこの松の樹との間に如何なる交渉があるか。この交渉の上にとつかと安住するものでこそ、眞の自我となつて必然の徳を擲むことの出来る力がある。それを移してこゝに考へるならば、婦人が腹を大きくして居る、その腹の中のものは何であるか、我であるか、非我であるか。もし糞となり大便となつて外へ出て行くものでも、それが我の一端であり、我が飛んで行くのだと思へば、情ないものであらう。さればとてそれは糞だ大便だ、おれのものぢやない、そんなら腹を切つて取るぞといつたら、待つてくれ、おれの大切なものを

強要されちやたまらぬといふであらう。

己れの腹の子供は、己れのものとするれば己れのものであります。愛する夫のかたみだと思へば非我であります。この自我非我の限界、自我非我のわかれるところが、社會的にも、凡ての場合に人格を考へ自我を考へる場合に重要に考へなくてはならぬ點であります。腹に子供をもつて苦痛をして居るところの女こそは、自我非我の限界の破れたそのも一ツ高いところへ立つべき力を一ケ年に互つて訓練を爲しつゝ、あるものであります。それ故に、腹へ子供を入れて肩で息をしながら、家の中を切りまはしてやつて居る者のその働きの、眞の意味において自我非我の域を越え、も一ツ高いところへ上る力の訓練であるからして、最早子供を産んだ女は、すでに舊の自我中心の女ではありません。今まで自我的に動いた女も、子供を産んだといふことにおいて、最早自我心を離れてしまひ、寧ろ男子よりより以上高いところに立つて居るのである。但したと自分十ヶ月間その訓練をなしつゝ、子供を産んだ女も、産れた子供を他人に養はせるやうな女ならば、まだ功利主義個人主義的立場を離れられない女である。眞に可愛い子供に乳をのませて居るとき、乳に食ひつく子供をぐつと抱

きしめて居るとき、これは自我であるか非我であるか。

按摩が杖ついて歩いて居る、その時の自我非我の限界がどこにあるかとお考へ下さい。杖と自分との限界、自分と大地との限界がそこに出て来なければ、自分は動きが取れない。杖の先にふれる大地と自分との限界がついて居るからこそ、杖でさぐつて歩いて行かれるのである。その杖は自我であるか非我であるか。母親が子供を抱いて乳をのませて居るとき、これを愛する夫のかたみであると思へば非我である、非我にして大切にしなければならぬものである。大切にしなければならぬのみならず、これを己れの乳に連つて居る子供だと考へれば自我である。自我にして非我、非我にして自我、これが子供をぐつと抱きしめて来る働きてある。眞の神の愛、慈悲の働きのいふものは、こゝにある。(拍手)とにかく生れた子供だ、仕方がないから……といふこと、何の功利の念、利害の念がはさまつて居るか。その愛の働きのにおいてぐつと抱きしめ抱きしめ、己れを忘れて育てる。自分の子供だから仕方がないといはばいへ、さういふところにおいて女性そのものは自分の働きのして一歩一歩高く立つべく訓練しつゝ、ある。その訓練の力によつてのみ、女性に限らず凡ての人はよりよく生き得

るのである、より強く生き得るのである。

### 母の愛と母の力、醒めよ、永劫女性

我々は——といつてはをかしいかも知れませんが、少くとも私は、子供時代における母の愛を思ふ時、今日なほかつ私の力が湧き出て来るのを覚えるのであります。丁度百年前のドイツ、まるで日本の現代が西洋諸國の思想を受けて自己を混亂せしめて居ると同じやうに、當時のドイツはドイツ本來の魂、そのドイツ魂といふものに嵐が起つた。フランス個人主義の爛熟せる文明が入つて来てこれにかき亂され、またこれに反抗するの思想が起つて渦を卷いた。その感情の混亂せる時代、これをシュツルム・ウント・ドラング——嵐と窮迫の時代といふ。その嵐と窮迫の時代においては、自己の内面が恰も谷間を流る、奔流の如く、白き泡を立て、ぐつと沸立ち渦巻き攪亂された時代であります。その攪亂され醗酵したる状態を、靜かに靜かに組織し統一した大きな流れとして吐き出したものが、カントの無條件的命法として出て来た人間本性の獲得であつて、即ち汝の義務なるが故に義務を

なせよといふ大きな力であります。またシュライエルマツヘルの宗教哲學であります。乃至はゲーテの有名なるファウストの一卷の長作であります。

いづれもこれシュツルム・ウント・ドラングの時代において、人生問題の解決として出来て来たものであります。しかもファウストの最後の句に曰く「ダス エービヒ ヴァイブルツヘエ チート ウンスヒン アン」——「永劫—女性なるもの我を導き行く」と。永劫の女性といふ意味でなく、永劫即女性なるもの我等を天國に導き行くといふ意味であります。これは彼が八十一歳の高齡において、しかも斯く書き終つたところのものは、直接には聖母マリアへの言葉であります。實は賢夫人として名の高かつた母親へ捧げた言葉であります。シュツルム・ウント・ドラングの混亂また混亂した思想の中において、永劫即女性なるものは我を導く。我がこの後ろに立つて我をさへてくれ、我に力を與へてくれるものこそ、母の愛、母の力であります。(拍手)

然るに現代の教育、現代の制度はすべて西洋模倣から出て、眞に深刻なる自己を見出し得ないやうな方向にのみ辿つて居るがために、その誤れる政策によつて、多くの青年は今日混

亂に混亂し迷ひに迷つて居ります。その迷へる多くの者の深刻なところを分析してみると、これ母親の愛の足らぬところから出て来て居るものである。出てては功利入りては功利、その冷かにして輕薄なる愛、おれのところでは子供をかうしなければならぬ、おれのところではあゝしなければならぬといふやうな意味で出て来る愛、私はさういふ母親を名づけて良妻賢母と申しますが、その所謂良妻賢母の愛に育て上げられて、眞の愛の力を失うて居る子供は、哀れにも憐れな迷へる小羊であります。その迷へる小羊こそ、生命の光を與へんとしてもなかなか與へられず、また、受け入れられないものである。醒めよ、永劫女性。如何なる場合、如何に苦しいなかにおいても我等を保持してくれるものは母親の力である。(拍手)この意味においては男子に力はありませぬ。混亂の立場にあつて自分の後ろから押へてくれ、導いてくれる者は女性の力である、母親の力である。それがどうして出来るか、子供の愛によつてのみ出来る。それ故にこの愛は子供を生まなければ解らぬ。昔から偉大なる母親といふものは子供を澤山生んで居る。一人や二人ぐらゐる生んだのでは、まだそこに不純な功利的理窟が容易く入り得る餘地をもち得る。二人三人四人澤山生めば生む程、さういふ餘

地がなくなつて、絶えず純化し純化し純粹化してやうやく力をもつて来る。その力こそ眞に次の大なる力をもつて来る源である。

婦人の徳はどこまでも消極的なものであります。私はこれを禪宗でおやつのことを點心といふのに比して居ります、一寸おやつを食ふやうにやんはりしたもののつまみ食ひをさせるのが、婦人の徳であります。それが夫に對しては無限の力となり、子供に對しては永劫性として働く。この働きの根本となり原動力となるものが子供である。愛であるといふことにおいて、婦人の力は子供を生んでこそ出来る問題であります。そしてそれは既に申した通り一人や二人の子供ではまだ、眞個のところに行かない。澤山の子供を持つことによつて、よりよくなり純潔に進んで行つて、男女ともに煩悶の域に至つた場合、それを後ろにあつて支へてくれる力となり、女性の積極的の意義を現はすのであります。さればこそ、てんで子供を生まない者にはそれが出来ない、しかも澤山もたなければいよく純潔にならない。

實例を挙げよと仰言ればいくらでもあります、その餘地もありませんし時間の餘裕もありません。私の言はんと欲するところは簡單明瞭であります。即ち私は前にこの講堂へ

立つたとき因縁話をした。相當の年輩になつて来て親となり子となる、これ如何なる因縁をもつて来るか、その因縁といふことに考へ及べば、所謂功利主義からいへば因縁も何もあつたもんぢやなからうが、由つて實現するところの徳の働きから、成るほどさういふところがあるかと絶えず觀念する、そこに眞の人間の人間たる働きがある。も一ツこれを廣く言ふならば人間の文化——俗悪なる文化ではありませんよ、眞個の人間の文化をこしらへ、我々の歴史をこしらへて、過去あり現在あり未來ある生活を營んで居るところに進歩といふ榮光が輝く。その人間の働きの上から考へて、そこに一ツのつかむところの原理あつて後にこそ、初めて利害關係といふものを動かす力が出て来る。

それをば一種の哲學的空理空論なりと言ふ勿れ、原理なくしてその時代々々に應じ、その場その場によからうやうな政策を執つて居るならば、その國民は終には亡びなければなりません。現在人口の減少に苦しんで居るフランスが一番い、手本だ。フランスの社會問題、フランスの宗教問題、フランスの生活問題、そして子供をこしらへることが出来なくなつたといふ人口減少の問題は、我々をして未然に處理せしむべき手本としなければならぬものであ

る。或は日本のやうなこんな小さなところでは、これ以上殖えればともに生存することが出来なくなるといふならば、さういふ場合には、自ら調節され、自ら制限されて来ることは、民族の歴史において明かである。日本の國においても或る場所においてはさういふ現象が認められる。しかし古人は今日のやうな我儘勝手な意味において産兒制限をしようとしたのではない。或は宗教的儀式によりそれを非常に嚴肅なる形において、自らそれが出来て來て居るのである。併し自然に産兒制限を覺えた國は亡びてしまつた。我儘勝手な民族には發展の力がない、我儘の上において何事かを爲さんとするときは、國は終に亡びてしまふ、それは歴史に明かである。フランスはこれからどういふ意味において自分の國力を回復するのかわかりませんが、それは他所の國のことだ。他所の國といへばこゝに一ツ皮肉な例がある。

### イタリーに於ける獨身税

日本においてはお利口な政治家が近頃産兒制限を言ひ出して居るといふ。否産兒制限とい

ふと工合が悪いといふのでユーゼニックスといふ名において、いかにもそれは社會問題であるかの如く論じて居るが、豈圖らんやフランスのお隣のしかも日本と同じく多産て有名なイタリーでは、例のムツソリニー氏は、昨今獨身者課税の問題を提出して居るといふことである。又夫婦でも子供のない者どもに税金を課して、子供の多い者を救済しようといふのであります。物になるか成らぬかは分りませんが、こんな日本で堂々と産兒制限なんか論じて居るとは、少しムツソリニーの前に耻しくないかと私は考へます。(笑聲) 勿論日本はムツソリニーを要求しない。國體が違ふ、彼を要求する國ではないけれども、これは一例であります。しかもムツソリニーがさういふことを言ひ出す態度はどこに出て来るか、それが私の議論と一致するから面白い。ファツシヨの憲法を見よ、我々に祖國あるのみ、我々を知るを知らず、我々に義務あるのみ、義務の遂行あつて權利の主張なし、但し業務遂行の權利を保有するのみといふのが、ファツシヨの簡單明瞭な憲法であります。義務の遂行あつて權利の主張なしといふ、こゝにおいてイタリーのムツソリニーの態度を見よ。親となつて居れば子供は出来るがあたりまへ、その親たる義務として子供を育て、行く働きは、何てもない

ぢやないか。つまりらぬ自己の權利を主張しようとするから、親となつてしかもそれと同時に若い時のやうな權利を主張せんとするが故に、子供が邪魔になつて来るのである。義務の遂行あつて權利の主張なし、親の親たる義務を爲すといふことになれば、子供が何人居やうが多ければ多いだけ、ます／＼私の力を強めて行くばかりである。そこに我々の生命は永劫性をもつて来るのである。權利の主張を先にして自分の生存權の主張ばかり先にするから、その主張するところを失はなければならぬのが、目的結果不一致の法則であります。

かつて現代といふ雑誌に産兒制限問題の可否に就て掲げられた時に、私は勿論この態度において反對を論じた。そして他の人の見ようと思つて居るうちに轉宅騒ぎやなんかで、その雑誌がどこに行つたか分らなくなつて見て居りませんが、たゞ最初めくつて見たときに明治大學の赤神教授が、無能力なる外交者の下において、無能力なる政治家の下において、無能力なる教育家の下において、一口にいへば、無能力なる先覺者の下においてこそ、産兒制限は許されなくてはならぬといふ議論をして居られたのは、けだし面白いと思ひました。權利の主張のみを知つて義務の遂行を知らない者には、子供を澤山産むのは恐しいことで

ある。いやなことであらう。けれども義務の遂行を知つて居るものにおいては、子供が多ければ多い程多くなります。辨じ、そこに我々の力を實現し徳を實現するのである。なるほど今日のやうな社會状態においては、親が子供を教育するといふ上に、思ふ通りにならないのは事實である。併しそれは教育を功利的に見て居る罪ではあるまいか、單に子供の立身出世といふ様なことで教育といふ事を考へたならば、當然澤山あつては困ることである。しかしそれは一面今日の日本における無能力なる政治家——、あつちへ行つてははねつけられてどうしよう、こつちへ行つてははねつけられてどうしよう、いやロシアからはねつけられた、いや滿洲からはねつけられた、どうしよう、かうしようで日を暮して居るやうな、——政治家たるの義務を知らず、義務遂行の力なく働きのない、その當然の結果こんな問題を惹き起したのかも知れません。その點においてファツシヨの立場、義務の遂行あつて權利の主張なしといふ立場が非常に面白いのであります。

産兒制限論は我まゝ嬢におもぬるもの

我々が自分の主觀的な種々の場合を考へ、そして人の場合を考へるときに、女が大きな腹をかゝへてひこくして居り、(笑聲)おまけに子供を産んだために死んで行くこともあるといふことは、その女の狀態を見ると實にどうも悲惨極まる、同情に堪へない、こんなことだつたらいつそ産まないやうにしたらよかつたが、と思はないでもない。(笑聲)自分の妻が布袋のやうななりをしてうん／＼して居るのを見ては、これは出かさないで居つたらよかつたのと思はないでもない。(笑聲)思はないでもないが、それは小さな仁である、宋襄の仁である。女の徳の實現、女の力の實現といふ大局の上に立つて見れば、これからますます發展して行かなければならぬ我々の力の上から考へれば、子供を産むことが女の本來のためではないか、我々人間の本來のためではないか。いまだけ樂をすればそれでいゝ、今日だけ暮せばそれでいゝと考へるやつは子供を産まんがよからうけれども、女は子供を産むのが生命である、永劫の生活である。子供を産んで、もし萬一のことがあるとしても、これ男子が戰場において戦死するも同じこと、名譽なことである。(拍手)名譽が空論だと功利主義の人は言ふかも知れない、權利の主張のみある人は言ふかも知れないけれども、さうすれば

大なる意味においての自分といふものを失ひ、ひいては國家を失はなければならぬ。

それ故に我々の立場から言ふならば、安部氏がどういふ立場に出られるか知りませんが、安部氏の議論をきかない前に私として産兒制限論を批評すれば、それは大きいへば功利主義、婦人のためからいへば我儘な婦人におもねつた議論である。

殊にアメリカの産兒制限論の如きは、アメリカの我ま、嬢におもねつたひよろ／＼男子の議論であると、かくの如くに私は言ひたい。そんな議論をかういふ國體の國に持つて來るといふことが既に間違つて居る。次に行つて安部氏がどう出られやうと私の根本は變りません。たゞ如何に説明して行くかは問題であるが、とにかく私の考へて居るやうなものならば、その議論は宋襄の仁、小さな仁であつて、或は産兒制限論者は、親の身になつて見れば、女の身になつて見れば、と色々な困難な場合を引き出して、それだからといふ議論をするだらうけれども、特別の場合である。併しそれは一般論にはならぬ。本當の義務の自覺の上から考へればそんなことは凡て問題にならぬ議論であると思ふのである。

### 産兒制限論は亡國の哀音

故に私は「現代」にも書いて置いたが、産兒制限なんか言ふことは我々の美風を失はしめ、我の力を失はしめ、國民の力を失はしめる亡國の哀音であると斷言する。國家はどうてもいふやうな社會主義などといふものは、そこに頭をもたげて來るかも知れないが、さういふ議論に入れば、國家は如何なるものであるかといふ自ら他の議論に入らなければならぬから止めますが、根本の力を忘れ源を離れて、徒に人道を説いた處で、それは我儘勝手な人道である。人の道なるものをいくら説いたところで、それは抽象的なものである、空理空論である。我々國家の一員として、須く何を爲すべきかといふことを考へる。これ國家の一員としての義務である、仕事である。

それを考へる時、この産兒制限論なんかといふものは、一ツの社會政策の問題にもならない。社會政策上の一ツの論になるといふ基礎付けは、我が憲法の制定されたと同様の精神において、臣民の安寧幸福を増進するは勿論のこと、懿徳良能を啓發するものでなくては基



礎とはなりません。日本國民の道德、日本國民の懿徳良能をそれによつて阻害するとか、それによつて増進するといふやうなことが明かになつてのみ、社會政策の一ツの問題として討議せらるべきかと思つて居る。

されば産兒制限論なんかは社會政策として論ぜられる價値もないものであると私は敢て斷ずるものである。たゞし勿論遺傳の關係、悪い病氣をもつて居るもの、かういふものに當然制限を子を産まないやうにするといふことはあり得べきことであり、またやらなければならぬ問題であります。しかしそれは取りのけの問題、例外的問題であります。さういふ取りのけの問題を眞正面にふりかざして、かるが故にといふ一ツの論として立てることがどうして出来るやうか。

生殖の問題は下等動物から人類へ通じての最も嚴肅な問題である。それには強い本能が伴つて居る、強い強い本能が伴つて居るのであります。それ故に若干の取りのけを以て全面的政策と爲すならば、今日現に滑稽な事實が澤山出て來て居ります通り、眞に制限をしなければならぬものが制限に來るのでなしに、制限しないでいゝやうなやつ、制限すべからざる

やうなやつ、さういふ墮落したやつらが制限々々といつてやつて來るといふ、この現象を如何に取扱ふか。善良なる意味において立てられる政策ならば矛盾撞着であり、悪い意味においてこれを解釋すれば、人間本來の力を失ひ、道德は地をはらつてなくなつてしまふといふ功利主義的なものである。人間本來の力を養ひ、徳を實現せしめて、進んでは佛教の所謂菩薩道を實現せしめて行かなければならぬものを、産兒制限なんといふことが唱へられ、實行され、それが至當なこととされるやうになるならば、その政策は人間を修羅道、畜生道、餓鬼道へまで引きもどすものである。即ち人間を下等動物扱ひにするものである。(拍手)

時間が來ましたから最後に一言申し上げますが、詩經幽風に柯を伐り柯を伐る其則遠からず——斧の柄をつくるべきところの手本はそんなに遠いとところにはありません、現にそのもつて居る所の柄で十分だ。しかもそれ故に君子は人を以て人を治め、しかして後已む。——下等動物を以て人間の道を治めるのはありません、神の意志を以て人を治めるのはありません。人を以て人を治める、そこに人と人たる道が出て來るのであります。ところが世には進化論なるものがあります。下等動物を以て人間を律しようといふやうなことをする學者

があります。高等師範の丘淺次郎といふ進化論の博士は、この頃日々新聞に性慾のことを書いて、下等動物の性慾は或る時期があるのに、人間だけには何故年中あるのか、といふことを堂々と論じた。そして生物學の見地からすれば、家畜に性慾が強くなるのは生活が安定するからである。人間も家畜と同様であると論ぜられた。人をつひに家畜にしてしまつた。――（拍手）。君子は人を以て人を治む、我々の道は我々のものでなければなりません。我々の上に出て来る性慾關係は我々の上の性慾關係であり、我々の問題であります。即ち強い本能は強き人道の契機であり、又契機たらしむべきであります。その我々の問題を下等動物によつて説明せんとしても説明出来るはずのものではない。我々の問題は我々日常の生活において説明し解決しなければならぬと思ひます。（拍手）

二

社会民主党中央執行委員長 安部磯雄

前辯士が初めにお話になつたが、九人のお子さんがあつて一人お亡くなりになつた、實にこれは妙な因縁であります。私は八人子供があつて一人缺けた、どうしてもこれは紀平さんの方が一日の長があります。それで私は八人子供を持つて今七人てありますが、その多くの子供を持つて居つた自分には、それが非常に困つたといふことは少しもない。丁度紀平さんがお話になつたと同じことてあります。

社会問題としての産兒制限

私が産兒制限を唱へるといふとは別に主觀的な自分の問題ではない。私は及ばず乍ら永い間社会問題を研究して居りますので、今紀平さんのお話になつた社会政策の一部であるその社会問題の立場から社会全體を眺めた時は、私は産兒制限論者になつたのであります。これは

決して近頃の事ではない。無論この問題は自分を中心としたものではなくして、成るべく廣く社會を見て、或は進んでは世界全體を見て、將來の人口問題といふやうなことを考へて、その意見を今晚お話し上げる積りてあります。何れ後になつて紀平さんの御説に對し私は批評を試みる積りてありますが、今は自説を述べただけで討論は後廻しに致したいと思ふのであります。

産兒制限といふことがある場合に許されることは、前辯士がお話になつた通りで、たとへば不具の子供を三人も續けて産むといふやうな人であれば、その親はどうしてもこれ以上子供を産んではならんと考へるのは當然で、さういふ場合に制限するといふことは恐らく紀平さんも御異存ないことと思ふ。それからまた普通あることでありますが、母親が妊娠しまして醫師の診察に依りどうしても子供を産むとは出来ぬ、若し子供を産めば母親がどんな憂目を見るかも知れぬといふやうな場合にも制限して居ります、現在の日本の法律は人工墮胎を許して居る位で、さういふ場合に産兒制限を行ふことについても、別に紀平さんには御異存

のないことと思ふ。母が死ぬか子供が死ぬかといふ場合には、母親を助けて子供を亡くなくすといふことは常識を以てそれをいひ得ることと思ふ。只今申上げた通り若し不具の子供が引續いて産れたといふことになれば、親が子に向つてその制限を加へるといふことは、極めて當然であります。

而して問題は貧乏のために自分の子供を養ふことの出来ぬ場合に制限をするといふことは許さるべきであるか、といふことになる、これは大分議論が生じて來さうで簡單に片付ける譯には参りません。無論貧乏といふのも程度の問題ではあります、兎に角自分が子供をこれ以上養ふことが出来ないといふやうな状態の人、さういふ場合には矢張り前に言つたやうな例外といふものに形を變へて適用される理由があると私は思ふ。それは何故かといふに、親が死ぬか子供が死ぬかといふ場合と同様、子供が多くなつた場合、親は非常な貧困状態に陥つて、遂に子供を養ふことも出来ぬ悲惨な状態に陥る。それは死ぬといふ問題とは違ふけれども、子供が生れるれば生れる程その親も子も食物に不足を感じるようになるので、これは重大なる社會問題であります。丁度あの棄兒の歌にある通り、この子供を棄てなければ

自分が立行かず、自分が飢ゑればその子が育たぬ、これは私共も考へ得ることとせう。さういふ場合において親をどうするか、當然親を助けねばなりません。併し産兒制限とは殺す殺さぬの問題ではない。今日の産兒制限なるものは、決してそんな殺伐な人情に背いたものではなくて、たゞ穩かに避妊法に依つてこれを行ふものであつて、これに依り、どれほどお互の道徳心といふものを傷けるてせう。若しこれが人道に背くといふとてあつたならば、子供を産むのに、母親は生命が危険であつても、矢張り命を天に委して子供を産まなければならぬといふことになり、矢張り茲に死活問題といふものをも含むといふことを考へねばならぬ。今一ツは不具の子供なら産まぬ方がいゝといふやうなことは、誰しも考へることでありませんが、貧乏人の子供が決して所謂不具であるといふことは申されませんが、不具に近いところの無學であり、あるひは不道徳であるといふやうのことは、貧民の子供により多くあり勝ちのこととあります。若し子供に親が十分の食物を與へることが出来ず、且つ教養を與へることが出来ぬ場合には、子供の前途がどういふ風になるかといふことも考へなければならぬ。不具者が社會にとつて非常な負擔となるやうに、この教育を受けない子供の將來は社會

の重荷となり負擔となることは私共の忘れることの出来ないこととあります。無論かういふ場合に我々が自己といふものを忘れて、國家とか社會といふものを廣く考へることが出来れば甚だ結構なこととあります。併し乍ら今日の實情を考へて見れば、將來國家のためといふやうな觀念を懷いて子供を産むやうな人は恐らく極めて少數であらうと思ひます。若し多く子を産むことが國家のために必要であるとするならば、國家はフランスでやつて居るやうに、多産の人に對して相當の補助をするといふやうな途を開くことが必要とせう。さうなれば子供を産むといふことが、國家のためであるといふやうな思想を十分國民に吹込むことが出来るかも知れません。

### 子供が生れて良いか悪いかの標準

要するに我々はどういふ場合に子供を産むべきであるか。どういふ場合に産んではならぬかといふことは、自分が子供として、どんな家庭に生れ出て來ることを希望するかを假定して見るのが一番よい。これを假定してそして自分は本當にかういふ家へ生れたいといふや

うな境遇であれば其時こそ子供が生れて差支へない場合である。即ち両親にしてもお爺さん、お婆さんにしてもその新來のお客さんに對しよく生れて来て呉れたといふやうな状態にあるならば、子供が生れても幸福でありますけれども、またかといふやうに家の人も皆思ふやうな場合ならば、私は子供としてさういふ家には生れたくない、いつそ生れない方が幸福ではないかと考へられる。それが生れて良いか悪いかの標準だと思ふ。何も難しいとは無い、我々が皆自分で決定すべきことであつて、自分の家に今子供が生れて一家の幸福を増すことになるか、また子供は幸福であるかといふことを我々は考へなければならぬと思ふ。

これは國家經濟の上からも重大な問題であり、決して捨て置くことの出来ぬことと思ひます。第一子供が澤山生れるといひましても、従つて死ぬ者が澤山あるといふことになれば、結局生れるといふことは有難くない。今日日本の状態を見ると、出生率は非常に多いがその反面において死亡率が非常に多い。世界においても第一位を占める位に多いのであります。これは私共が唯倫理道德の問題でなく經濟的問題として考へなければならぬ處であります。少く産み少く死ぬ場合と、多く産み多く死ぬ場合と、つまり人間の數が結果において同

じ位になるとしても、國家經濟の上においては大變な相違があります。何故なれば、多く生れて多く死ぬといふならば——生れたところで、五六歳或は十歳位まで養つて、その者が何の働もしない内にぼろ／＼死んでしまふならば、打算的に過ぎる嫌はありますけれども、結局それは養ひ損といふことになる。これが打算的であることは初めから斷つて置きますが——國家經濟の上から成るべく産む數を少くして同時に死ぬ數を少くするといふことは私共の理想でなければならぬ。

私は社會問題、社會政策、ユーゼニツクスの問題を決して度外しては居ない。結局人間といふものは人種として偉くなるのも、國家として偉くなるのも、その中の構成分子であるところの一人々々が、立派な者にならなければ駄目であることは申すまでもないこととあります。この一人々々の人間の向上を計るためには矢張りどうしてもある程度の産兒制限といふものをやらなければならぬ。今日ではたしかに日本でもさういふ事情になつて居ると思ひますが、産兒制限をやらなければならぬ階級には、この方法が判らないためにあまり行はれずに、産兒制限をしなくともい、ところの中流以上の階級には、これが行はれて居る。これ

は私共の考へなければならぬとて、若しこれをこのまゝにして置くといふことになれば、ユ  
ーゼニックスの上からいつても甚だ面白くない。人種は進歩するよりも、却つて退歩するといふ状態を來たしはしないかと思ひます。何故なれば所謂無學であるところの無教育者や、  
道徳の低いところの階級の人々は段々人数が殖えて、むしろこの社會の指導者の地位にある  
中流階級以上の人々は段々出生率が減つて行けば、無論これは社會として喜ぶべきことでは  
ない。我々の唱へて居る産兒制限の目標として居るところは、決して中流以上の階級の人々  
ではない。むしろ中流より下に居る人々に、または貧民窟に居る人々に、この産兒制限とい  
ふことを説き、あるひはその方法を知らせる必要がある。これが私共の何時も考へて居る  
ことなのであります。

### 日本の人口問題は移住や植民政策では解決出来ぬ

その次は只今内閣において調査して居る食糧問題、人口問題に對する私共の態度であり  
ます。人口の増加といふことを寧ろ歓迎する人々は、人口が殖えて來れば、結局海外移住が

行はれる、海外に移住し膨脹して行けばこれ即ち國力の膨脹ではないか、と論ずるのであり  
ます。併し乍らこれは私共の大いに考へなければならぬ問題であります。無論食糧を段々  
殖やすことを考へたり、或は國內の人口を移住させるとか、或は北海道のやうなところを開  
拓して移住させるやうなことは、勿論一時的な人口問題の解決にはなりません。けれどもそれが  
最後の解決でないことは明かであります。何故なれば、海外に移すよりも、北海道、樺太等  
へ人口を移すよりも、内地の人口といふものはもつと急速力を以て増加しつゝ、あるのであり  
ます。とても今日移住や植民政策を以て日本の人口問題を解決することは出來ない。それは  
過去のことを考へて見ても明かに分ることである。

日本は日清戦争以來臺灣を自分の領土として居るが、また今から二十二、三年前には、滿  
洲も日本の勢力範圍の下に來た。また十七、八年前には朝鮮をも日本に併合するといふこと  
になつた。これ等は今日日本の植民地と稱されて居るけれども植民人らしい人が果してこれ等  
の土地に行つて居るでせうか、役人などは澤山行つて居る。その役人の家族とそれ等を取巻  
くための商人は澤山居るが、本當に移住して貰ひたいと思ふ勞働者あるひは小作人といふや

うなものがそこで仕事をして居るのは極めて少数である。今日全部を合せてどれだけの人が行つて居るかといへば、臺灣、朝鮮、滿洲に居る日本人は合計七十二萬人位である。しかも臺灣の如き三十年以上もかゝつて、滿洲が日本の勢力範圍に來て既に二十二、三年、朝鮮が併合されて十七、八年も経つて居る。それだけか、つて七十二萬人を海外に吐き出して居るだけである。左様なことを考へれば、どうしても我々は植民政策に依つて日本の人口問題を解決しようとするのは殆ど不可能で、若しさういふことを考へて居るのなれば、それこそ本當の夢だと思ふのです。

無論私共は食糧を殖やすことも、あるひは少しばかりでも植民を企てるこいふことも、聊かも反對ではない。併し乍らそれに依つて産兒制限は必要がないといふ、さういふ説を唱へる人があれば、私共は大いに反對である。今日人口問題といふものは、決して日本だけではない。凡ての文明國が頭を悩まして居る。たゞアメリカとか濠洲とかあるひは植民地を澤山有つて居るイギリスは、人口問題で頭を悩ましては居りません。けれどもその他の國々はたしかに人口問題で困つて居る。そして事實においてどの文明國も産兒制限をやつて

居るといふことを證明することが出来る。

### フランスの産兒制限は財産の相續關係から

フランスは御承知の通り余程前から産兒制限をやつて居ります。このフランスはどういふものか何時も問題となつて居る。フランスの人口は次第に減つて來るといはれて居る。併し乍らこれは誤解です。近來のフランスの人口増加率は極めて少いといふ位で、決して減つて居るに居ない、少しづつは増して居るのであります。斯くの如く増加率の少いのは、これは非常な理由のあることであつて、私には何か書物で讀んだやうに思ふけれども、はつきり記憶しませんが、フランスはナポレオンがこしらへた法律の影響で産兒制限が最も早く且つ有効に行はれたといふことである。その法律はどういふものであるかといへば、ナポレオンはフランス革命時代の平等主義といふものを遺産相續法に實現したのであります。そして親の遺産を相續する時には男の子にも、女の子にも、平等にその財産を分けなければならぬ。男女の區別もなく、長男もその次の子供の區別もなく、子供に平等に財産を分ける。この制度が確

にフランスに産兒制限といふものを行はしめるやうになつて来た。何故ならば、親が澤山子供を持つて居ると、十萬や二十萬の財産はあつても、その子供に十分分けてやる事が出来なくなり、一人の取分は極く僅となる。だから親心として、段々子供の数を少くし成るべく遺産を多くしてやらうといふことを考へるやうになつた。少し極端かも知れないが、この頃フランスでは二兒制度即ちツウ・チルドレン・システムといふことになつて居るやうです。子供が二人であれば平等分産を行つても財産は少くなりません。即ち親が十萬圓持つて居れば二人の子供に五萬圓づつ分けてやる、子供が自分の家に相當したものと結婚すれば向から五萬圓持つて来る。五萬圓と五萬圓を合せて十萬圓、それがまた子供が出来るといふやうなものだから、五萬圓になつたり十萬圓になつたりするだけで、實際の財産はちつとも減りもしないし殖えもしない。

### 人口漸減のフランスは歐洲大戦で何故強かつたか

そこでお隣のドイツは、フランスはあんなに人口が段々少くなり殖えなかつたならば、必

ず將來戦争でもしたならば、一たまりもなからうと考へて居つたのであります。けれども歐洲戦争をやつて見ると案外フランスは強い、弱いと思つたフランスは決して弱くはない、無論イギリスが助けたり、アメリカが助けたりしたけれども、結局助けに來た兵隊は大した事もなく、主として戦つたのはフランス人であつた。フランス人はドイツ人が考へたやうに弱い兵隊ではなかつたのであります。何故さうであつたかといふと、殆どフランスの人口が増加しないといふ事について、多くの人はフランスのために心配し、あゝいふ風では困ると考へた人も多かつたけれども、彼等はフランスのモウ一ツの方面を見て居なかつた。フランスに於ては本當に羨ましいほど富の分配がうまく行はれて居る。非常に大きな金持ちもないが、又大した貧乏人もない、彼等は自分の遺産を少くしないやうにと産兒制限をやつて居るのであります。そこで歐洲戦争の後にどういふ結果が現はれて來たかといへば、戦争がやむと同時にイギリスもドイツも失業者が大いに困り、多い時は百萬人にも上りましたけれども、フランスにはちつとも失業者はなかつた。

この社會状態を見る時、我々は社會政策として、産兒制限問題を考へなければならぬこと



が判るのであります。フランスは今述べた通りであります。ドイツも歐洲戦争前十年この方人口増加率が明かに減つて居る。これによつて見ればドイツ人も産兒制限をある程度まで行つて居つたことは争はれぬ事實であります。地球上何處でも産兒制限をやつて居ない國はありますまい。アメリカでは、法律を以て産兒制限を嚴重に取締つて居ります。フランスも近頃は反動的になつて、歐洲戦争後は嚴重に、アメリカと同じやうに法律を以て、産兒制限を公衆の前で説くことを禁じ、そして種々の方法を以て、むしろ多産を奨励して居るやうな状態てあります。併し乍ら恐らくは世界の文明國で産兒制限に對してそんな嚴重な法律を設けて居るのはフランスとアメリカの外にはないでせう。アメリカでは今から四十年ばかり前ニューヨーク州の宗教家が宗教の立場から産兒制限は不都合である、神の命令に背くものであるといふので、つひに法律を定めたもので、それが依然として現在でも働いて居るのである。

### 産兒制限の濫用は杞憂

併し乍ら先年参りましたサンガー夫人はアメリカは産兒制限を嚴重に禁じて居るために、毎年百萬以上の墮胎事件があるといふことを申して居りました。サンガー夫人は若し産兒制限を即ち避妊法を許すことになればこの慘らしい墮胎事件も其大部分を減ずることが出来ると申して居ります。あの濠洲のやうに土地が甚だ豊饒であつて人口は澤山ではありませんけれども、其處でも産兒制限は盛んに行はれて居る。自由にこれを人々が行ふことが出来るやうになつて居る。ヨーロッパにおいても殊に一番人々の注目して居るのはオランダであります。其處では大概の看護婦事務所の看板の横に産兒調節相談所といふやうな札が懸つて居るから、どんな婦人でもそこへ行きさへすれば、あるひは無手数料があるひは五六十錢の手數料を出して産兒制限の實行方法を聞くことが出来るやうになつて居るのである。今まで歐洲諸國で喧しく論ぜられて居つたのは、産兒制限を行ふといふことにより若い青年男女がこれを濫用しはせぬかといふことでありましたが、一度オランダに入つて其状態を見ると、その心配は全く無用であることが分りました。オランダに行つて見ると、男女の風儀といふものは、どの國に比較するも遙かに好い健全な状態を示して居る。産兒制限が出来るといふこ

とになれば早く結婚するやうになる。結婚後自分の収入では子供を養ふことが出来ぬといふ心配があれば、産児制限をすれば宜しい。かういふ状態でオランダは既に産児制限問題を殆ど解決して居る。故にこの問題を研究する人は先づオランダに行つて調査するといふ状態てあります。

### 産児制限に対する政府の態度

次に私は日本のことも申して置きたいと思ひますが、私共が六七年前産児制限の意見を發表してから、その後私の知つて居る人もアメリカから歸つて来て、實際問題即ち實行方法を教へることをやり出しました。私は産児制限を盛んに説いては居りますけれども、決して實行方法を説いたことはない。日本ではかういふことを、公開の席で説いたりあるひは新聞雑誌などで説くことは、警察の方で風俗壞亂といふやうな名目の下に禁じてあります。併し乍らさうでなく、たゞ秘かにやつて居ることであれば別に取締らないのであるから私の友人も最初は警察の干渉を受けたこともありませんが、一昨年あたりから殆ど何等干

渉はなく、産児制限のことを書いたものを小冊子にして會員に頒布して居ります。日本全国に只今では三萬以上の會員が出来、さういふ人々には産児制限の知識といふものが與へられて居るのであります。

私は日本の政府が一昨年頃から大分この態度を改めて来たといふことについて何か譯があるのではないかと思つて居りましたが、昨年の夏私がイギリスから取寄せた社會問題の書物の中に偶然にもかういふことが書いてありました。その書物はフリードリツク・カウゼンスの「労働に對する新政策」といふので、その四十六頁にかういふことが書いてあります、即ち日本の人口問題を論じた序に『日本政府もいよくヨーロッパに産児制限問題取調委員を送つて調査中である、』といふ意味が書いてあります。その書物はもう少し前に出たもので、私が讀んだのは昨年の夏でありますから、それを思ひ合せて見ると、日本の政府が、兎に角、産児制限といふことが人口問題を解決するところの方法である、といふことをたしかに考へるやうになつたのは、此調査の結果ではないかと思はれます。殊に今の内閣書記官長鳩山一郎氏は新聞に大々的に産児制限の必要を説かれて居る。それ等を思ひ合せても、政府の

態度は餘程變つて來たことと思ふ。私は、この産兒制限問題が最早今日では議論の問題ではなくして、世界全體の趨勢から見ても實行期に入つて居るところの問題であると思ふ。それは主觀の問題ではなくして客觀の問題であるといふことを深く信するものであります。私に與へられて居る時間はまだありますけれども、私はむしろ大體に私の立場を話して今から紀平さんに私の説を批評して戴きたいと思ひます。

三

紀平正美

安部氏の御議論を承つて大變にその立場の相違して居ることを知りました時、これでは反駁の反駁にならないといふことが分つた。よつて私はたゞ私の立場を明かにするといふことだけに止めます。

安部氏との立場の相違

先刻安部氏から、子供が澤山あれば親の重荷になる、負擔が大きくなるといふお話がありました。その意味に聯關して、滑稽なやうですが、私の經驗談をいたします。私の三人目の子供が出來た時、私は明日の大學における講義の原稿を書かなければならなかつた。そのとき私は一人の子供を脊中に負つて、も一人の子供を膝の上のせて、そして原稿を書いたことがありましたが、その時ほど自己充足を感じたことはありません。姉の方の子供

を脊中に、次の子供はまだ小さいから泣いて仕方がない、泣けば新しく生れた赤ん坊や母親の邪魔になるので、これを膝の上のせてゆすぶりながら原稿を書く。これ三位一體の力てあります。(拍手)

安部氏は、私のを主観論に出発するとなし、自分は客観論に出発するのだと仰言いました。が、私も少くとも論理哲学をやつて居る限り、單なる主観に止まつて居らない積りである。併し主観に立脚しない議論は、これを空理空論と言ふ。自分の觀察、自分の實驗、廣くいへば自分の經驗を如何に原理付けるかの上に、私は生きて居る者であります。もし客觀的なりとして單に抽象的な議論をするならば、如何なる條件でも、又どういふ方面に向つても、勝手な例を取ることが出来ませう。けれども動かすことの出来ない、退引きならぬところの自己の力によつてのみ、眞の内容が得られるのであると信じて居ります。由來多くの學者先輩の中には、外國のものを讀み、外國のことを知るといふことを以て、それは實際自分の生活に基いたものでないけれども、しかもそれを多く取つて來ることが、如何にも學問であるかの如く考へる者がある。また社會においても、それを得たものが所謂知識階級として待遇さ

れて居る今日の時代である。それは主として明治時代からの勢ひの然らしむるところであるとはいへ、如何に多くの書物を読み、如何に多くの知識をつかまへたとて、三歳の童兒に論語一冊を暗記せしめて、そこに何の眞理を持來し得るや。言ふまでもなく、その得たところの概念に自己の實際の經驗が入り得なくては空理空論であります。それ故に私の著書「行の哲學」に、原理なき生活は空虚である、實生活に基かない哲學は戲論である、と私は書いて置きました。眞個に物を批判する力は、自分の經驗からわき出したものでなければなりません。普遍的立法の原理たるに價値するものは、自分の實際の經驗に立つてのみ初めて出來る原理であります。

日本の本來の立場は何であるか、本來の國民道徳は何であるか、實際動いて居るものを、たゞい、加減に所謂抽象的に批評しようとしたところが、も一ツ大きく言ふならば人の道なるものを如何につかまへんとしたところが、その本質は、所謂知識——抽象的な、外國の書物位を讀んだ知識——を以てしては、掴まんとすれば則ち背く底のものである。日常の生活を正當に理解し、日常の經驗を正當に組織し、そしてそこに産み出して來る力こそ、本當

に事物を批判する原理であり、又その原理をもち得るものであります。

### 産兒制限と法令との因果關係

この意味において、安部氏はいろいろの例を取られましたけれども、私には何の力にもなりません。その一ツとしてサンガー夫人の言がありました。サンガー夫人はアメリカに多くの犯罪が出て居るといふことを言つたさうであるが、それは既に産兒制限を覺えて居るところへ、産兒制限不可といふ法令を出したから犯罪が出て來るのであつて、それ故に産兒制限を公にせよ、犯罪が出來たから許せといふ論理的結論は少しも出て來ない。(拍手) 酒を飲むことを知つて居る國民に、酒の味を覺えて居る國民に、いま酒を飲むなといふ法律をしけば、そこに犯罪も起るはずである。日本ではまだ幸にしてその方法が知られてゐないから、けれども、これを教へ、これを知らせて、しかしてあとになつてから、いくら西洋でもやるから又制限禁止法をやれといへば犯罪者は出るに相違ない。

こと強烈なる本能に本づくものである限り、他のものと同様な議論で考へることを許さ

れない。産兒制限を不道徳にあらずとして平氣でやることを覺えさせて、人口の減少に心付いて、これではならぬといくら嚴重な法律を出しても、そこに却つて犯罪の出るのはあたりまへのこと。こんな例を持ち出された所が御議論の根據になるものでない。サンガー夫人でもヘンガー夫人でも(笑聲) そんな例をこゝへもつて來られたつて、我々の前には議論にならない。

またオランダが産兒制限を理想的にやつて居るといふとてありますが、事實かどうか私には知りません。よし事實としても事實如何が、云々のことをすべしといふ絶對命令權を出して來る原理とはならない。しかもオランダといふ過去に於ける強大なりし國は今如何なる實情にあるか考へ給へ。ヨーロッパにおける一小國、強大な國と國との間に挾つた小さなところを築をこしらへ、その中にちこまつて居る人々である。それで事實であるとするならば産兒制限でもやらなければ立つて行けぬ、最早發展の餘地なき國民であらうことをそれによつて却つて豫想されるのである。

その上に、これは一ツの別問題でありますけれども、今日日本の社會といふものは銀行さ

へもうまくやれない状態にある。我々は銀行にやられて居ります（笑聲）けれども、銀行さへやれない社会である。しかるに最早銀行制度といふものは、信託會社の制度にまで進んで行つて、そしてその信託會社制度をオランダはまことによく運用して居る。その運用において日本は勿論、他の國ではまだそれだけ運用の出来ないときに、オランダは最もうまく信託會社をやつて居る。銀行すらうまくやれない國民が、オランダがうまくやつて居るからといつて、それをそのまま、日本へもつて来たところで、どうして一歩進んだ信託會社がうまくやられませう。物の實例を取つて来るのには、もう少し批判的に考へなければならぬ、その國情が如何なるものであるかを考へての上にお取り下さい。

### ユーゼニツクスの議論は人間には應用されぬ

人口を調節することによつて經濟關係がうまく解決されるといふやうな御議論、これはどういふところの順序を以て經濟關係が解決されるか、承り度い。先刻も申しましたやうに、だんくく人が多くなつて来れば、その人の食ふ物も多くなるといふことは、改めて算盤だま

を弾かないでも分りきつたことである。食糧問題が問題でないとはいはないけれども、二三日前のどの新聞やら名前を忘れてしまつたが、かういふ話がある。埼玉縣の奥のある村に、米麥共に五倍の收穫をする人が出来たといふ。この人はいままで幾十年も掛つて研究した、その間所謂農業雜誌であるとか何であるとかいろいろの雜誌を取つて、いやしくもい、といはれる方法ならば何でもやつて見た。そこに利害の念を超越して、あらゆる方法を實行し研究して、そして初めてこの方法を發見したといふ。このたしかに得た力、これぞ人口問題でも食糧問題でも何の問題でも、最もよりよく解決する所の本當の問題である。他の人よりも五倍の收穫を得る、これが實際果して出来るか出来ないかといふとは、私が見て来た譯ではありませんけれども、出来るとしたならばそれは實際の上に種々研究實驗して見た人の力である。あの人があ、いふ方法を案出したから、おれもその事を眞似してやらうとしたところで、眞似しても決してさうは行かない。人の力はそこなんです。（拍手）その人独自の力、それをあの人がどうしたからどうする、かうしたからかうするとやつたところで、眞似の出来るものではない。他の國がどうしたから、他の國がかうしたからつて、そんな眞似をして

うまく自己特有の問題の解決が出来るはずはない。二十年三十年の間、千辛萬苦したその努力の結果としてその力の實現として、如何なる土地には如何なる方法を以てすれば、五倍六倍の收穫をあげ得るかといふことをその人は體得したのである。その力はその人のものである。他の人がその方法を真似したつて、どうにもならないはず。即ちその人獨得の力においてのみ凡てのものは解決されて行くのであつて、他人のことは他人のこと、自分のことは自分のこと、他人がどうならうがかうならうが自分の問題ぢやない。

それからユーズニツクスの問題が出ました。ユーズニツクスの實行によつて産兒制限が出来るなどといふ議論は、どこから見ても立ち得ません。ユーズニツクスは先刻も申しましたやうに進化論の應用である、メンデルがスキートビーについて努力研究した結果である。所謂メンデリズム、進化論の應用、メンデルが初めからさういふものをこしらへようと考へ出したものと思つてはならない。彼の努力によつて自ら出て來た所のものを進化の原理と結合してユーズニツクスの議論が又出て來たのである。

即ち人間が人といふ立場において應用する。例へば豚なら豚を改良しよう、鶏なら鶏

を改良しようといふ時において、これを應用して着々成功して居る事實は私も認めます。競馬に使ふ馬、軍事に使ふ馬、さういふものがメンデリズムの應用によつて、理想的につくられつゝあることも認めます。どんなものでも、今日科學の態度を以て考へるときには、不可能なりといふことはないはずであります。彼のナポレオンがおれの辭書には不可能なる語はないといつた。それが眞に近世の科學的立場の上に出て來る信念であり、またそれがナポレオンをしてあれだけの仕事をなし得しめた力であります。我々が實際の科學的立場に立つならば、世に不可能なるものはないと信ずる。さればこそ私は人の力を信ずるものであります。しかしながらそれは困難を経てこそ擲み得る所の仕事である。決して容易なことではない。それを今日の人々の考へ方では、所謂イージー・ゴイングの立場、容易いことをやろうといふ立場から家畜を人間のためにどうしよう。かうしようといふ目的を立て、その目的において云々のことをやつて行く。成るほど進化論とメンデリズムを應用すれば思ひ通りのものが出來ます。出來ますけれども、出來たものがさうであるか。思ふ程に出來たときには最早生産力がなくなつてしまふてはありませんか。先刻申しました人間を家畜同様に

扱つてはならぬといふのもその意味であります。

近頃ドイツあたりでも、二兒制(ツアイ・キンダー・ジュステム)とか、三兒制(ドライ・キンダー・ジュステム)とかしきりにいつて居るけれども、人間をそんな態度によつて、そんな立場から取扱つて、ユーゼニックスが出来るといふのは空理空論である。その結果たるや、顔をつくると同じこと。試みに朝顔の種子をまいて、人工をもつてこしらへて、思ふ存分花を咲かして御覧なさい、それが生殖作用をもつかどうか、最早生殖作用はなくなるのであります。八重咲の立派なものは、御承知の通り種子をもちません。かく思ふ存分なものは出来ませうが、人工的にそのうちから引きぬき引きぬきするときは、遂には生殖力を失つてしまふ。人間を人間の思ふ勝手にこしらへたらどうであるか、人間を家畜に比することは出来ません。ユーゼニックスの議論といへどもこれを人間に應用してはならない。應用するとすればやはり人間を下等動物の豚に律する所以である。(拍手)

### ゲエテは盤根錯節窮通の道あるを教へてゐる

私はまた例をオランダに還します。社会的理想——私 はこれを理想といはず空想と言ひ度い——その社会的空想の上から考へれば、オランダといふ國民はあるひは立派な國民かも知れません。オランダ或はデンマーク、そこいらの百姓は立派なものだといふ。そこで日本のやうな眞似することの好きな國民が、さういふところの理想的な百姓を五家族か六家族北海道の札幌にほど近い處へ移住せしめて、日本の百姓の手にしようと考えたところで、これは失敗してしまふにきまつて居る。北海道に行つて御覧なさい、第一土地が違ふ、風土が違ふ。あすこらに連れて来たところで、オランダの百姓はオランダの百姓、デンマークの百姓はデンマークの百姓、日本の百姓ではありません。日本の百姓は日本の百姓としてこそ出来る問題である。他國のものを模倣して日本のものが創造出来るはずはない。その國民がいゝからといつてもそれはその國の國民である、日本の國の國民ではない。だから社會主義的空想論からいへば、天國を考へるのが一番よからう。天國には生殖なきが故に(笑聲)天國の神の社會においては、この地球世界におけるが如く女が子供を産む困難もない。顔に汗して妻子を養ふ苦勞もない。汝悪しき女よ、汝は蛇にだまされたるが故に懷妊の苦痛を



與へる。そんなことはなくなるであらう。(笑聲) 懷妊がいやだつたら神の御許に攝取されるが一番よからうと思ふ。(拍手) しかもさういふ國を理想として今日の社會を考へることは、先刻も豫防線を張つて置きました通り、天國のことは天國のこと、決して人を治めるの道ではない。

道は近しと雖も行かざれば至らず、盤根錯節に應じ困難に處して、そこに所謂窮通の道がある。「山當面立疑無路、轉過邊來四望通」茫然として徒らに立ち徒らに眺めて居ては、凡ては疑ひの種悲觀の本となる、それを通過するのはそれは私どもの働きてある、私どもの力である。私どもの働きの私どもの力が充ち満ちたとき我々の前には大いなる天地が展開する。かくの如くになれば、食糧問題もなければ、人口問題もない。そんな問題は朝日に向ふ淡雪の如く融けさつてしまふのである。これを歴史の上に考へて見ても、先刻フアウストの例を取りましたが、ゲーテは盤根錯節窮通の道あるを教へ、カントの例を取りましたが、汝の義務なるが故に義務を爲せよ、ちつとも産兒制限を論じて居りません。しかも、若し死んでから後のことが分るならば、それは都合よからう、便宜がよからうけれども、死んで後の事が

分るやうになつて居つたら人の道徳性は如何、人の道徳性は亡びてしまふ。死後の事が知られない所に人の人たる道徳的の訓練が出来る。こゝに文化の本源があると云つたのはカントの力である。眞に苦痛の上から流れ出して來た、おとなしいカントの激越なる言葉である。ゲーテがフアウストの言葉を藉つて母性愛の永劫を説いた。それ等の力は、少くも過去百年の間において、ドイツが天下に覇たる力をこしらへた所以のものである。如何なる問題について、かうであるからあゝである、あゝであるからかうであると議論をするには、もう少し細かく、細かく論項の順序を明かにして欲しい。それは今こゝに要求することは少し難しいだらうと思ふけれども、同じオランダの事例を引くならばそれも宜しい、サンガーの事證を取るならばそれも宜しい、要はもう少し委しく少し細かくやつて欲しい。然らずんば條件を具備しない抽象論に終る。

### 人間としての力はその働きてある

とにかく前に申しました通り、人間としての本當の力、その働きの見出す働き、それが創

造の働きてある。コペルニクスが天動説を變じて地動説にしたのもコペルニクスの創造である。同時にそれは見出しである。しかもそのときに、自己を眞個に見出した眞個の力は、これを禪宗の公案にとつて説明して見るとかうなります。雲門が或るとき説教をして曰く「十五日以前のこと汝に問はず、十五日以後のこと一句を道ひもち來れ」——十五日以前とは月半以前の事、過去のことはどうしたかうした、あゝいふことがあつたなかつた、かういふ理窟ぢやあゝいふ理窟ぢや、そんな過去の出來事は知つて居る。そのやうな知識のことを汝に問ふのぢやない。十五日以後のことがどうであるか、更に一步をす、めて行くその力の事を一句を道へと云ふのであります。

外國の例がどうあらうとかうあらうと、人がどうしようとかうしようとか、云々の事が條件で云々の事が出來た。そんな云々の事を幾何知つて居つても、今からどうしようといふのか、さあその方法があるか、あつたらここへ持つて來い。雲門門下には隨分秀才があつた。それが寄集つて居つたけれどもみんな黙つて居つた。すると雲門自ら代つて言ふ「日々是好日」——毎日々々よいお天気ぢや。十五日以前の事汝に問はず、ぐづぐづした理窟をきくんぢや

ない、十五日以後のことが汝の力としてどう動くか、日々これ好日、毎日々々よいお天気ぢや。過去に執着する人間は、今日は雨が降るからどうしよう、今日は風が吹くからどうしよう、他所へ遊びに行かうとするには雨が降れば悪日、風が吹けば悪日、我儘を通さうとするには雨が降れば悪日、風が吹けば悪日、偶々天氣がよくても少々頭が痛いから悪日、(笑聲)これでは毎日悪日ならざるなしてあります。それを雨が降れば降るで己の力を以て利用し、風が吹けば吹くで己の力によつて利用する時は、雨降らば降れ風吹かば吹け晴天尙ほよし、如何なる場合でも悪日といふ日が何處にある、日々これ好日、毎日々々よいお天気ぢや。

田舎あたりに行つて一生懸命に勞働をやつて居る人を見給へ、雨が降れば雨の日の仕事をする。風が吹けば風の吹く日の仕事をする。悪い天氣は一日もないから、「今日は、いゝお天気だ」といつて居るではないか。眞個に日々この事を創造して居るものからいへば、毎日々々これよいお天気ぢや。家にばかりすつこんで愚にもつかないことを考へて居る者からいへば、日々これ悪日ぢや。本當の意味で勞働をしようとする者においては、外にあつては、外の仕事あり、家にあつては内の仕事あり、今日は悪日だからどうのかうのといふ問題なく、日々

これ好日として働くことが出来る。

それと意味は少し違ひますけれども、英語においては毎日朝起きてバッド・モーニングといふ者があるかどうか、やはりそこがイギリス魂のあるところかどこへ行つてもグッド・モーニングである。雨が降つても風が吹いてもそれがさうなつて居る以上仕方がない、毎日毎日これを好日たらしめるところ、そこに人間としての力がある。(拍手) 毎朝々々をグッド・モーニングたらしめるところにイギリス魂があり、ドイツにドイツ魂があり、その魂によつて凡てのことを運用して居る。これを忘れてはならない。これを忘却してはならない。我れまた自らを忘却してはならない。それ故に雲門のこの日々これ好日の公案の一番おしまひに、ぐづくするな、ぐづくしたら三十棒をなぐりつけるぞ、「勤著三十棒」とある。三十棒なぐられたら痛いといふことを知らなければならぬ。痛いことを知れば、逃げるか反抗しなければならぬ、ぐづくやつて居る暇はないのだ。この力こそ毎日々々好日たらしめるものであり、如何なる問題であらうと、そいつを解決して行くべき働きてある。私どもがこの力をしつかりつかまへない限り、如何に社會問題を論じようとうしよう、そ

の問題の解決が出来て行くはずがない。なぜならば原理のない問題になつてしまふからである。

### 都會生活を根基とした考へ方においてのみ産兒制限は正當と考へられる

先刻も申しましたやうに今日の教育制度にしても、政治問題にしても、そこに如何なる原理があつて、どういふ原理の上に安住して居るか、まづそいつから解決して行かなければならない。然るにたゞ世の中におもねるやうな議論をして得々たるが如きは、これを向上といふことは出来ない、墮落である。よしその原理が間違つて居つても間違つたてよろしい。間違つたといふ働、自己をそこに運んで行けば、それだけの向上、それだけの創造が出来て行くのである。けれども原理なくして議論して居つたのではどんな容易い社會問題とても解決する日がない。たとへば西洋における社會問題は西洋における社會問題であつて、日本におけるそれではない。問題それづくに特殊の歴史的意味を持つて居り、そして其處に苦しん

て居るのである。しかもフランスは産兒制限を知れることの過れることを悟つて、産兒獎勵に苦心して居るではないか。そしてそれが先刻も申しましたやうにドイツに入つて行つて、ドイツもまたいま識者の頭を悩まして居るではないか。ともかくフランスが人口の減少に苦しんで居るのは本を正せば近世初期の抽象的なる平等主義から出て、それをナポレオンによつて法の精神として實行にまで持つて行かした所にある。それで遺産分配を小兒等に平等にするといふことが、もとなつて居る。尤もこの事をくはしく論ずることは、非常に大切な事とは信するが、今出来る問題ではない。

要を言へば個人主義的思想が、一面において自然科学と聯關し、實際生活としては經濟的都市同盟といふ所より發達したのが、西洋に於ける今日の國家である。更に簡単に云へばブルジョア主義の社會組織である。そして之が抽象的なる自然科学に基くものから、その方法による所のものが、如何にも眞理である様に考へられ、それによつてダーウインの進化論までも、之を自己意識的なる人間をも律し得る様にも考へて、上述のユーゼニックスといふ様な根本的に間違つた事も考へられる様になつたのであります。

それで私は産兒制限などいふことも都會生活を本とした考へ方においてのみ正當なりとする事の出来るものと考へて居る。人口の減少といふこともそれと聯關して問題でありませぬ。ブルジョア思想に對する反抗は今日一般的の傾向であらう。西洋諸國の衰亡といふこともこの都會生活の没落を意味します。それでつまりフランスに於ける人口の減少といふのも過去の社會組織の没落を其儘に表示して居るのではあるまいか。我等はともかく深く歴史的の意義に就て考へなくてはならぬ、只その末のみを見て模倣して居てはならないのであります。勿論小兒が餘計出來て餘計死ぬといふこと、若しこれが外國に比して日本が特に多いといふならば、これは一つの日本の社會問題としても宜しい。若しさう云ふことがあるならば施すところが足りないからであらう。十分の注意を施して生んだだけの子供は——私は一人亡くしたからさういふだけの權利はないかも知れませんが——育てるといふことに努力するのが當然である。その説明法はとにかく、フランスでは子供が實際出來なくなつてしまつて居る。

面白い話がある。戦争の當時フランスの國務大臣が集つて國境に於ける私生兒の取扱ひ方

法や又これから先の人口問題をどうしようかといふ協議をした際、その席上でお互が一體何人の子供をもつて居るかといふ話になつたら、拓殖大臣がたつた一人のお嬢さんをもつて居るに過ぎなかつたので、お互に相見て苦笑したといふことであります。中上流の社會においてはかくの如し。意外にもあるべき筈の中流以上の階級に子供が無く、即ち最も多くの産兒制限なんといふことを覺えてやつて居るといふ事實は、西洋においてもやはり事實である。水の淺きに流れると同様、墮落の方向には陥り易い。而してそれは寧ろ農民や勞働者の如き同情すべきものになく、即ち産兒制限を要するものでなくして、ブルジョアの逸民にあるのではないか。かういふ場合更に下層の貧民がこれを覺えてやり出したらどうするか。過去に、又日本でも或る時代に、墮胎といふことの行はれた事は事實であります。併しそれと産兒制限といふことは全く概念が相違します。墮胎といふものは涙を振つてやらなければならぬ事情があつて、これをよいこと、意識して平氣でやつたり又やられるものでない。しかるに産兒制限を教へ、それを悪くない正當なりと意識してやるといふやうなことになつたら、人間的活動の原動力は失はれて、最早取返しのかね時代が來るであらう。同情すべき貧民

に澤山の子供があることが社會的に不都合を來たすならばそれこそ國家が社會政策の上において、如何にすべきか眞個に考へて見るべきである。それが立たねば無方策といふべきである。無方策だから兒を産まない様にせよとの議論は成立しない。貧民の苦難を見ては同情するのはあたりまへ、特に子供が多いからといふ場合には一層同情をするのは當然であるけれども、貧民の貧するのには決して小兒が多いからのみではないことを知らねばならぬ。誤れる同情、宋襄の仁をもつてこれに向ふときは、我々日本民族の前途は危くなつて來るといふことになる。

單に人口問題のみならず、多くの社會問題が眞に自分をつかむといふことにおいて解決出來る。一々例證をお取りにならぬでも足りると思ひますけれども、尙ほ細かい議論に互つて立論せられ、それには例證が入用であるとせられて一々に就て議論せよと云ふことならばその例證に就ての詳細なる議論をやりませう。それは尙ほ幾他の項目、幾多の論項を経なければ私から見れば産兒制限といふことが一ツの生きた社會政策の原理となり得ないからであります。けれどもさういふことは後の問題としまして、こゝではたゞ私の立場だけを

明かにいたして置きます。私の分はこれで終ります。長く御静聴を煩しましたことを感謝します。(拍手)

四

安部 磯 雄

大分立場が相違して居るのでどうも批評する事は餘程困難であるやうに思ひます。これはお聞きになつた皆さんが十分御推察下さること、私は考へます。極めて簡単に断片的の批評でありまして、紀平さんに對して甚だ相濟みません譯であります。がさう多く時間を費す譯もありませんので茲に簡単に申し上げます。

母性愛と餓鬼道

最初に婦人が子供を産むといふその刹那の状態を哲學的に種々有益なお話があつたのであります。而して私もある點まで本當だと考へて居ります。けれどもその母性愛といふものが子供の數に依つて違ひます。四人、五人の子供位までは本當の母性愛が現はれると思ひます。併し母性愛は二人よりも三人の方が、三人よりも四人の方がモット多く現はれるかも知

れないが、それが際限がなく殖えて来て、十二人も子供を有つやうになり、西洋人の中には一腹二十五人まで有つた人があるといふことですが、さういふ場合に婦人はそれだけ多く母性愛を満足させるといふことがいひ得るでせうか。ちと極端な例ではありますが、むしろある點になれば——中流階級では五人、六人、七人、八人は兎に角養つて行けます。けれども實際今日筋肉労働に依つて生活して居る者は、一日の賃銀が一圓五十銭とか二圓とかいふのですから、五人も六人も子供を産んだ時には、どうもこのお母さんが自我と非我との調和であるといふやうなことを考へる餘地が果してあるかどうか。

そこで私は思ふ。子供の多いことは結構であるけれども、あまり度が過ぎるといふと却つて迷惑があるといふことは、自然の現象を見ても明かでありませう。例へば、水は飲料として我々の命を支へる所の大切なものでありますが、あまりに澤山になると洪水といふやうなことになるのであります。かうなつては水も私共に取つては最早有害なものであります。これは考へられることであつて、自然でもさうであるから——自然を以て人間を律することは宜しくないといはれますが——子供が多くなると、到底母性愛を現はすどころではなく、

つひには子供を見て癪に觸り、この餓鬼奴がといふやうになつて、母性愛どころではない。餓鬼道に陥つて居るので、さういふ事實を私は認めなければならぬと思ひます。

### 徳川時代に於ける産兒制限

それからサンガー夫人の話に對して御批評がありました。アメリカに於ける墮胎事件の多いことは、畢竟産兒制限といふものを教へるやうになつたからで、そんな悪いことを教へたから一方に悪いことをするやうになつたといふお話がありました。

併し事實はさうではない。何故ならば日本におきましても徳川時代などはどうでせう。たしかに産兒制限の必要があつて、その時の制限法は今の避妊法ではなくして、墮胎が行はれた。墮胎のみではありません。生れた子供を直ぐ殺してしまふといふことで、私の見たところでは日本國中何處にも行はれて居つたところの罪惡であるが、これを取締ることは出来なかつた。學者のいふところに依れば、徳川の初期に於ける人口は二千五百萬人であつたが徳川末期には三千萬人となり、三百年間で僅に五百萬人ばかりしか殖えて居ない。要するに

徳川時代においては、食物不足のために、人民は盛んに墮胎、兒殺しをやつた。即ち産兒制限をやつたのである。アメリカで墮胎をやつたのは産兒制限を教へたためにさういふことになつたといふことは、これはどうも紀平さんの言葉としてちと過言ではないかと考へる。

オランダのことも一寸部分的にお話がありました。オランダのやうなあゝいふ小さな國は先へ伸びることが出来ないから産兒制限の必要があるんだといふお話があつたのですが、それはたしかに事實だと思ふ。無論紀平さんの御考へをけなす意味ではないが、どうも何だか言葉の調子とても申しませうか。オランダのやうな小つぼけな國はとても伸びることが出来ぬから産兒制限をやつたといふ意味はしつた。たしかにその點もあります。併し乍ら紀平さんが日本などはまだ外にうんと膨脹する力を有つて居るといふお考へならば、それは一つの空想に過ぎないと申上げたい。

### 人口の増加と國境

今日は世界中が丁度私共の日本の社會と同じやうに繩張りをちやんと定めて居る。若し

下谷、淺草邊りの貧民窟に行つたならば、四疊半の部屋に七人も八人も住つて居るといふことは聞いて居るところであります。さういふ人があるかと思へば、またその反面には東京の町外れ、少し郊外に入れば、二萬坪或は三萬坪の邸宅を構へて召使共を使つて少數の人々が住つて居るのであります。これはどういふ譯でさうなつたかといへば、私有財産制度のため繩張りが定つて居り、今日容易にそれを取除ける譯には行かないからであります。若し下谷邊りの貧民が二三萬坪の邸宅に行き、貴方の家は非常に廣いからどうか私共を入れてもらひたい、少しは中に割込んでも差支へないでせうと要求したところで、その要求はとても駄目である。今日は不幸にして各國とも皆この繩張りをして、その繩張りを犯してはいけないといふことになつて居る。

若し國家がそれをするならば、我々は食物も食はずに陸海軍を盛んにして、暴力を以て遠慮なく外國へ食ひ込んで行くより外仕方がない。さういふことをすることは今の日本の國家として正しいやり方であらうか。功利主義といふことを紀平さんは度々いはれたが、功利主義から見ても理想主義から見ても外國の繩張りを犯すことが果して正當であるかどうかは、



「私共の大に考へなければならぬ問題であります。だからこの意味において、日本は丁度オランダと同様な立場に立つて居ると言つて宜い。アメリカだの、オースタリヤだの、それからイギリス等に較べて、たしかに我々は伸びる餘地のない地位に立つて居る。假令領土を多く持つて居る場合でも、その領土が極めて耕作するのに適當な場所であるか、あるひはそこに行けば、賃銀が日本の内地よりも多く取れる場所であるならば、段々擴まつて行くことが出来やうけれども、先にも申したやうに日本の膨脹といふことは目下有つて居るところの植民地だけては十分でない状態である。かうなつて來た時にオランダと丁度同じやうに、當然の歸結として、人口問題といふものを考へなければならぬと思ふのであります。」

### 最大多数の最大幸福

少し話は外に外れますが、全體一國の理想といふものはどこにあるかといふことを私共は考へて見たい。若しこれが繩張りのない時代であつたならば、我々は大自然とこの植民國になつて植民地を有りたいといふことも私共は考へます。若し我々が維新時代に住んで居

たならば、我々はこの機會に應じ金を儲けて澤山な土地でも買込んで二、三萬坪の邸宅にも住んで見たいといふ考へも有つたらうが、併し目下はさういふ時代ではないのです。さうするとういふ理想を以てこの國家は進んで行くかといへばもう領土的野心といふやうな方面に進んで行くといふことは、考へが間違つて居ると思ひます。ヨーロッパでもドイツとかフランスとかあるひはイタリーとかロシアとかいふやうな國は比較的に大きな國であるけれども、彼等はなかく國家としての威嚴を保つとかあるひは國家としての力を保つといふことに非常な苦心をして居りますが、小さい國は平氣です。ベルギーだつて、オランダだつて、デンマーク、スイスであつても小さい國は野心が有てない。野心を有たない代りに内容が充實して居る。そして兎に角國民といふものは幸福な生活を續けて居る。紀平さんはそれは功利主義だといはれるが、私はどうしても我々の目的が最大多数の最大幸福を得るといふことではなくてはならぬと思ふ。人類といふものを兎に角幸福に進めて行くことが出来さへすれば、それでよい。それが功利主義であるならば、私は功利主義を以て甘んずる。兎に角最大多数の幸福でなくてはいかぬ。

### 世界的に幸福な國スイス

今日誰がヨーロッパを漫遊しても、スイスの國民が一番幸福であるといふことを承認しないものがあるでせうか。國際的に言つたならば、スイスなどは本當に小さな國で、外交的には幅は利かないでせう、けれどもこれを一族の人にとへて見ても事情は同じことです。一家の主人が交際家でなく、幅を利かせて居るのだつたならば、主人は大概留守であつて平素家庭の人々と共に晩飯など食べるやうな暇はなく、主人が交際費を澤山に使ふからして他の者は何事にも缺乏を感じる。主人は華々しい交際場裡に立つて居るけれども妻子は漬物にお茶漬位で生活しなければならぬ。併しスイスはそれと反對に一家の團樂を樂みにして居るけれども、交際場裡には幅が利かない。家の中で主人も細君も子供も樂しく暮らし、一人も不平を言ふ者がないといふ如き幸福な國を造るには、國家全體の理想がどこにあるか、それを定めなければならぬ、それが先決問題であると思ふ。

### 産兒制限は社會政策上必要である

我々は今日のやうな状態において、人口を段々に殖やして行つて世界中で大きな帝國を築き上げようといふやうな野心を有つて居るならそれは大なる夢である。これに反してオランダとかスイスとかベルギーのやうに平和な幸福な國家を造らうと考へるならば、どうしても私共はある程度まで人口を制限し、誰も彼も同じやうな平等の生活を續けて皆愉快な生活を送れるといふことを私共の目的として進まなければならぬと考へます。紀平さんのいはれるカントの至上命令で以て人間が動くことは實に雄壯なことであつて、その點は確に私共の標準として行きたい。併し乍ら實際社會においては何が至上命令であるか、一々その内容を検討しなければならぬ。私はよく覺えて居るが、あの明治二十七八年戰役に、日本が遼東半島を取りました時分に、ロシア、ドイツ、フランス三國の干渉に依つてこれを還附するといふことになつた。私はその當時京都の同志社に居つてまだ學生だつたが、尾崎行雄氏が來て演説をされた。その演説は私共が聞いて非常に面白く感じたのである。どういふ

ことをいはれたかといふと、遼東を還附するなどといふやうな、さういふ腰抜けなことをする奴があるか、ロシアの軍艦が幾ら、フランスの軍艦が幾ら、ドイツの軍艦が幾ら、これを勘定してどうも日本の軍艦のトン数が足りない。これでは戦争しても駄目だ、戦争をやめてしまへといふやうなそんな腰抜けがあるか、個人だつて正義のため命を捨てることがあるんぢやないか、國家としてもさうではないか、國家としてこの正しいことをやるのに日本が亡びても遺憾はない。さういふ痛快な演説をされたが、それがカントの「カテゴリーカル・イムペラチーヴ」で、身も國家も擲つて、そして正義のために戦はねばならぬといふのは實に勇壯な思想であります。

併しこれが果して至上命令であるか否かは何人も考へなければならぬ問題です。私共はあまりに哲學的あまりに主觀的であつてはならぬ。我々は今日空を仰いで居るけれども、私共の足は又確實に大地を踏んで居る。現在の社會を忘れることは出来ない。この意味において私は産兒制限を唱へるものであつて、決して哲學的に考へても恥かしくないものであるといふことを確信して居る。これにて私の話は終ります。

終り

### 産兒制限の可否

定價二十錢

昭和三年一月十五日印刷  
昭和三年一月二十日發行

複製を許さず

編輯兼發行  
兼印刷人

刀 禰 館 正 雄

東京市狸町區有樂町三丁目一番地  
株式會社朝日新聞社支店

印刷所 東京朝日新聞發行所

發賣所

東京朝日新聞社  
大阪朝日新聞社

317

138

朝 日 民 衆 講 座

第一輯

政界の長老にして多年普選の實現のために盡粹せられたる  
尾崎氏の講演速記……氏一流の論鋒を以て現下の政局を  
扶摘して痛烈を極む

尾崎行雄氏講演

# 普選問題の研究

四六判・七十余頁  
定 價 二 十 錢

(郵税四錢)

朝日新聞取次店  
又は書店にあり

東京 朝 日  
大阪 朝 日

(振替東京一七三〇)  
新 聞 社 發 行  
(振替大阪五五〇)

終

